



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三七七号〜

処暑^{しよしよ} 八月二十三日

山田傘

おかげ横丁大黒ホールで毎年開催されている「伊勢の匠展^{たくみ}」。伊勢を中心にした三重県内の伝統工芸品を一堂に集めた展示会です。私も毎年、足を運ぶと新たな発見があり、楽しみにしています。今年は、「山田傘」がこれまでより詳しく紹介されました。

「山田傘」は、伊勢神宮外宮周辺の山田地区で作られていた和傘のこと。旅館などの名前が大きく記された傘は、お伊勢参りの人々の雨具や土産物として知られていました。骨太で丈夫なことが特徴で、なんと傘の骨は五〇本にのぼるほど。堅牢で潮風にも強いと、重宝されたのもうなずけます。『伊勢市史』によると、江戸時代末に松孫商店の初代が伊賀から移り住み、伊賀の職人を招いて開業したのが始まりで、最盛期の大正時代には工場数九五、職工四七五人を数えたとあります。傘工場の裏に広がる傘干場の古写真では、和紙が貼られた傘がずらりと干されており、一大産業として栄えたことがわかります。

そして、山田傘の生産は時代とともに減少し、昭和五八年に最後の職工が亡くなり、幕を下ろします。現在は、山田傘を蘇らせようと「山田傘の会」が結成され、資料を収集し、復元に取り組んでいます。

和傘には、傘骨と柄の竹、傘骨を中心でまとめるロク口、傘骨に張る和紙と糊^{のり}、それに塗る柿渋^{かきしぶ}や油などが必要となります。開閉の要となるロク口には山田傘は伝統工芸の伊勢玩具と同じ、地元産のチシヤの木を使用。職人がロク口で挽き、五〇本の切り目を入れて仕上げていたようです。そのロク口作りが、今では岐阜の職人しか出来ず、復元の課題となりそうです。こうした伝統工芸品は多くの職人の技の結晶です。失った技にも気づかされる「伊勢の匠展」です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『来る福絵手紙公募展作品募集』

今年のテーマは「おかげさまで福招き」。

伊勢の神宮は古より「国と人の安寧を祈る場所」であり、世の中の平和を願い、人々の暮らしが心安らかであるようにとの想いを受け入れています。コロナ禍、分断、紛争、自然災害など、不安定な社会情勢に翻弄され続ける昨今ですが、改めて「安寧」という言葉が私たちに問いかけてきます。

「穏やかに安らかな日常を、大切な人とともに過ごすことができますように」。

そんな幸せを願う招き猫の絵手紙を募集します。

規定／①1人につき1作品のみ。

②官製はがきまたは、同サイズの用紙を使用。

③未発表または発表予定のないもの。

④入選作品の著作権は、主催者に帰属するものとし、作者は著作者人格権を行使しない事に同意される方。

※なお、主催者側が開催主旨、公序良俗に反すると判断した場合には、作品の展示を差し控えています。

応募先／住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記まで郵送。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52

おかげ横丁内「来る福招き猫まつり実行委員会」宛

締め切り／9月4日(日) 必着分まで(作品は原則返却いたしません。)

賞品／大福賞1名(賞金3万円、記念品、賞状)

中福賞1名(賞金2万円、賞状)

小福賞1名(賞金1万円、賞状)

五十鈴川郵便局長賞1名(記念品、賞状)

吉兆招福亭賞1名(記念品、賞状)

※尚、入賞作品は、次回の招き猫まつりの切手シートなどのデザインに使用させていただきます。

受賞通知／9月17日(土)までに電話にて連絡

展示期間／9月17日(土)～9日29日(木)

展示場所／おかげ横丁内「特設会場」

主催／来る福招き猫まつり実行委員会

お問合せ／おかげ横丁総合案内 TEL0596-23-8838

五十鈴塾

○『夏の星見とサンプルリターン』

夏の星空には、夏の大三角やさそり座など見どころがたくさんあります。さらにこの夏は土星が加わって賑やかです。晴れたらレーザーで夏の星空をたどったり、望遠鏡で土星をご覧くださいと思います。

2020年12月に帰還したはやぶさ2のカプセルやサンプルの展示が全国を回っています。今年は名古屋で11月に公開があり、三重県にもやがて回ってくるでしょう。

そこで地球外からのサンプルリターンについて50年にもわたる歴史と成果、未来についてお話したいと思います。

日時／8月26日(金) 18:30～20:30

講師／毛利勝廣(名古屋科学館学芸課天文主幹)

参加費／一般 1,700円 会員 1,200円 (お菓子付き)

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

のぎく 伊勢路をわたる風にも季節の移ろいが感じられ、数多くの野菊が愛らしい花を咲かせる頃となりました。
野菊 練りきりで粒あんを包み、初秋の野に揺れる、小さな花に見立てました。

ふじばかま 夏の終わりから秋の初めに花を咲かせる藤袴。
藤袴 香水蘭とも呼ばれ、秋の七草のひとつです。
この時季にふさわしい花そのままを、葛生地と緑餡で彩りました。

つゆたま 草木の緑はなお深みを見せているものの、葉に滴る露のひと雫からは秋の気配が感じられます。
露の玉 秋の季語「露の玉」を羊羹のきんとんと、こし餡で表現しました。